

三番瀬をフィールドとし、生き物の生物生態系や自然環境の循環を学び、
市民としてまちづくりに貢献する事業

【事業提案型3年目】

【フィールドミュージアム・三番瀬の会】

記入日：平成28年3月29日

【団体の概要】

三番瀬を中心に「生き物」の生態系から自然環境の循環を学ぶ。
プランクトン、低生物、魚、鳥、人間の関わり方を生きたフィールドで様々な市民と観察し自然の素晴らしさを共有する。

また、その素晴らしい自然を未来にも享受出来る様に地域と繋がりながら保全活動する団体。



【夏休みボランティア体験】

＜事業報告＞ 【支援金確定額：35,764円 支援率：50%】

■実施した事業の内容

生きたフィールドでの観察会を学生対象（「ふなばし夏のボランティア体験」8月15日・22日開催）、日本在住の外国人親子対象（国際交流会（10月17日開催）、一般市民対象（3月21日開催）に分け3回開催しました。

学生には生き物の循環を海岸で採取した生き物を観察し、渡り鳥が餌として摂取している様子を観察。海岸で見られる海藻、貝、カニの標本づくりで個々の生態や生き物循環の教え方を伝授。

外国人親子に対しては船橋市内で生き物達が多様に数多く生きている事を目と手と匂いで感じて貰い、その素晴らしさを体で覚えてもらい、子供たちの生き生きした目の輝きをみた。

一般市民は渡り鳥の生態として三番瀬は渡りの中継地点で重要な休息場で有り、体力回復の食事の場である事を渡り鳥の捕食行動で学び、砂浜に生息する生き物を採取観察し干潟の大切さを学んでもらった。

イベントでは同じ志を持つ団体との交流として、船橋環境フェア（6月17日）にてパネル展示と学生皆様が作った貝の標本を配布し、エコメッセ2015 in ちば（9月23日）ではエコステージで三番瀬の大切さをプロジェクターを用いてプレゼン、船橋市民活動フェア（1月31日）に出展しプレゼンステージにて来場者へ三番瀬の素晴らしさをアピール。また、各団体と活動内容を聞きながら交流をしました。

■支援金の支出内容

観察会では低生物採取のための器具、標本作りの道具、調査用の図鑑、専門講師の謝金、観察会のチラシ・販売用冊子の印刷費用。

団体での交流はイベント出展会場費、出展パネル製作費（写真A4含む）、パネル運搬費。

以上の内容で支援金を支出しました。



【国際交流会との観察会】

■事業の成果と今後の展望

観察会の参加者は初めて三番瀬に来た方が多く、生き物が生息する自然の素晴らしさを知り、その気付きにより生物多様性を守る大切さの必然性を感じ取って頂いた。

博物館で展示品を見るのとは違い生き物の生息するフィールドでの観察は重要である。

今回3月21日開催の一般市民対象の観察会は千葉県野鳥の会と合同で開催し効果を上げましたが、今後三番瀬に関係ある団体と合同で開催出来る様検討する。

■問い合わせ先：事務局 斎藤 清（さいとう きよし）

TEL：090-4532-4137

E-mail：fwic4383@mb.infoweb.ne.jp